

FUTURE DESIGN 2024 特別報告③

フューチャー・デザイン・ コンソーシアムの挑戦

2024.9.15(日) 11:40~12:40



岡本剛

九州大学 基幹教育院 准教授



上月翔太

愛媛大学 教育・学生支援機構
講師



菊地紀永

立命館大学 教学推進課 課長

報告の構成

1. 九州大学における教育導入の実践例と
フューチャー・デザイン・コンソーシアムの準備状況
(九州大学 岡本 剛)
2. 愛媛大学未来思考支援科目の取り組みについて
(愛媛大学 上月翔太)
3. 立命館大学の職員研修へのFD導入について
(立命館大学 菊地紀永)

九州大学における教育導入の実践例と フューチャー・デザイン・コンソーシアムの準備状況

2024.9.15(日) 11:40~12:00



岡本 剛

九州大学 基幹教育院 准教授

COI 開示

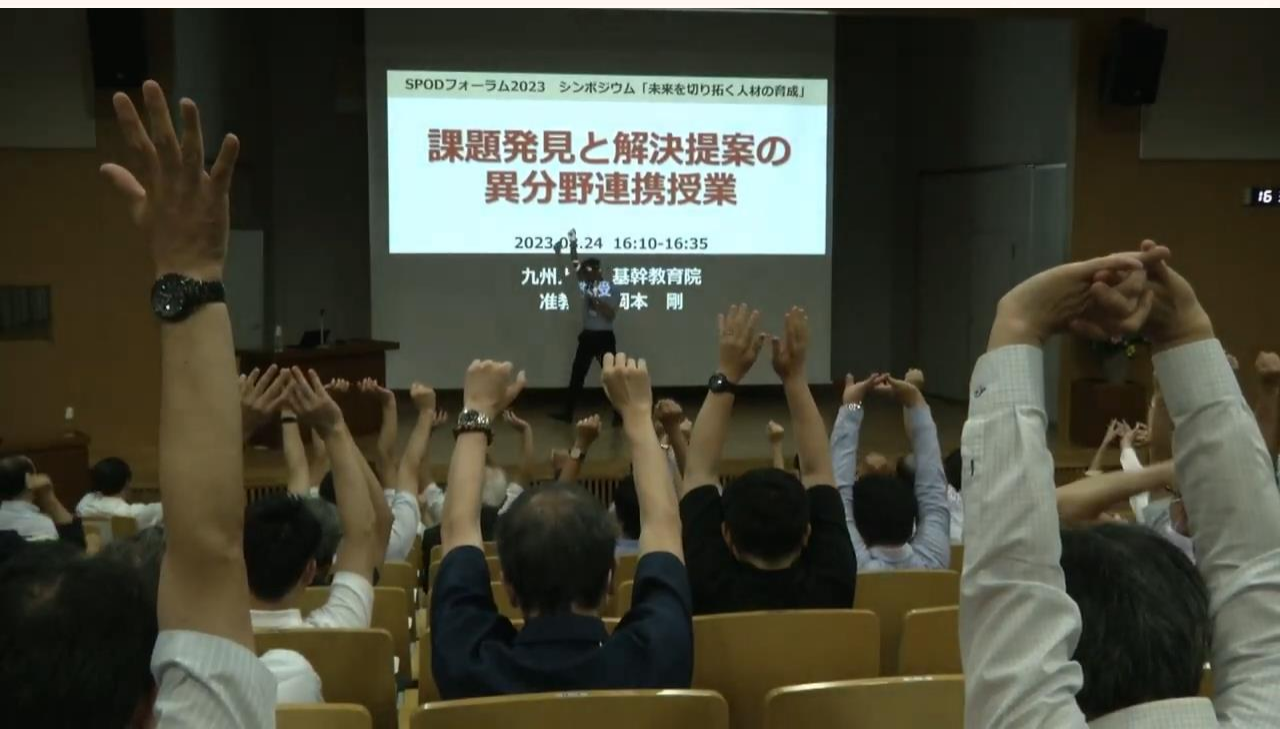
本講演には
開示すべきCOI関係にある
企業等はありません。



2023年8月24日 (2403G)

シンポジウム「未来を切り拓く人材の育成」

講師：西條辰義（京都先端科学大学）、上月翔太（愛媛大学）、岡本剛（九州大学）
コメンテーター：小方直幸（香川大学） 進行：中井俊樹（愛媛大学）



SPODフォーラム2023 シンポジウム「未来を切り拓く人材の育成」
**課題発見と解決提案の
異分野連携授業**
2023.08.24 16:10-16:35
九州 基幹教育院
准教授 岡本 剛

私のフューチャー・デザインの
全てはここから始まりました。

わずか1年余りで、**これまで
考えたこともなかった大展開**
を見せ、結果的に「『**未来を切
り拓く人材の育成**』をしようと
する人材として**育成**」されたこ
とになります。

今日のこの特別報告が、
誰かの大展開のきっかけ
になれば幸いです。

西條先生の講演を聞いた後



「フューチャー・デザインって面白いことを考えるなあ」

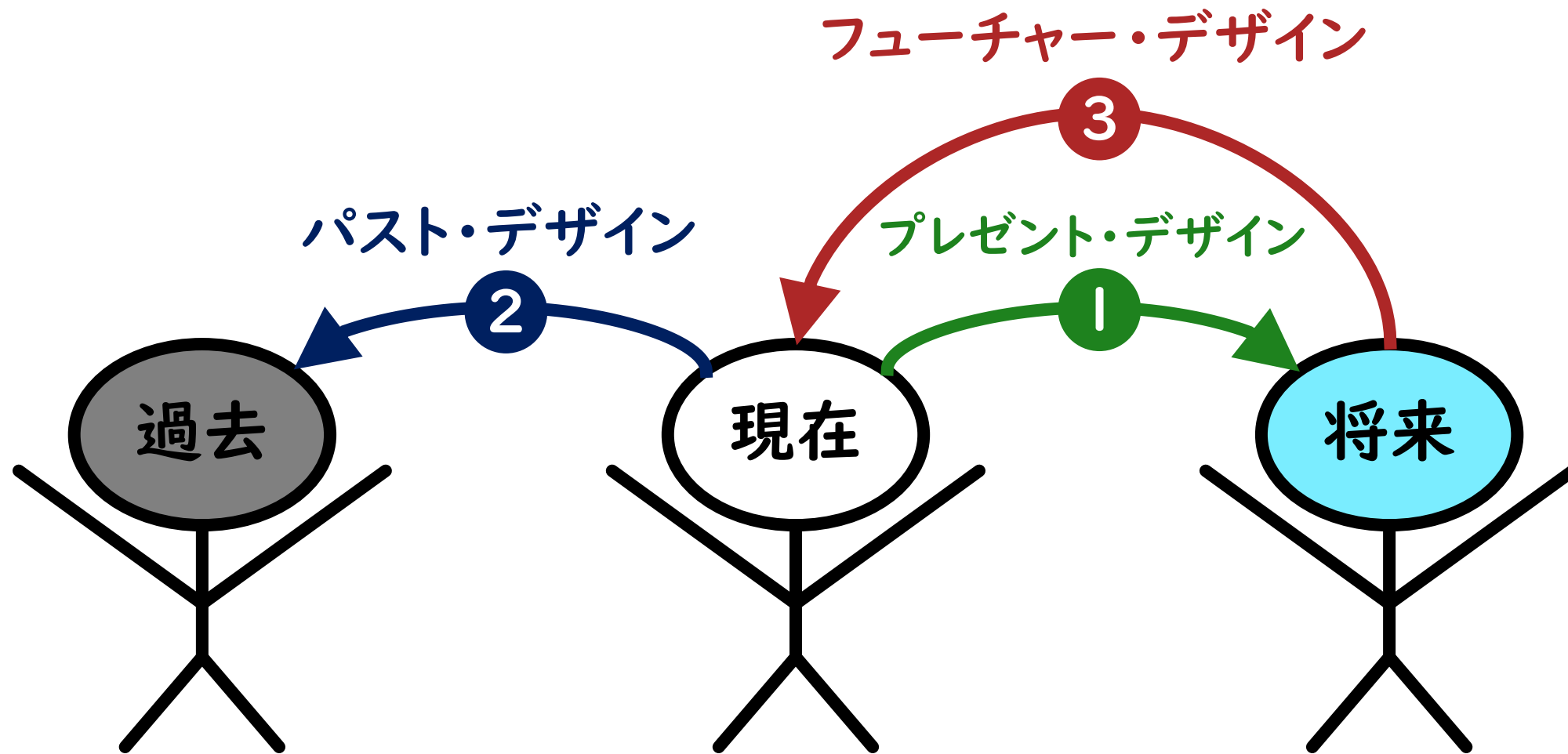


「こういう考え方はこれから必要かもしれない」



「自分の授業でやってみるとどうなるだろう？」

私がフューチャー・デザイン
を初めて知った2023.8.24から
どのような大展開が起こったか？



西條先生、中川先生から教わった3つのデザイン

これまでに実施したフューチャー・デザイン

比較的時間(90分×1~8コマ)をかけ

①プレゼント・デザイン ②パスト・デザイン ③フューチャー・デザイン

を複数実施した授業や研修が5件

実施時期	対象	人数とコマ数	コマ数	手法
2023後期	九大1年生	約50名×3	8	②③
2024春学期	九大3~4年生	約20名	2	①③
2024前期集中	九大院生	9名	8	①②③
2024前期	昭和女子大1~4年生	約20名	4	①②③
2024夏期	立命館大職員	約50名	1	②③

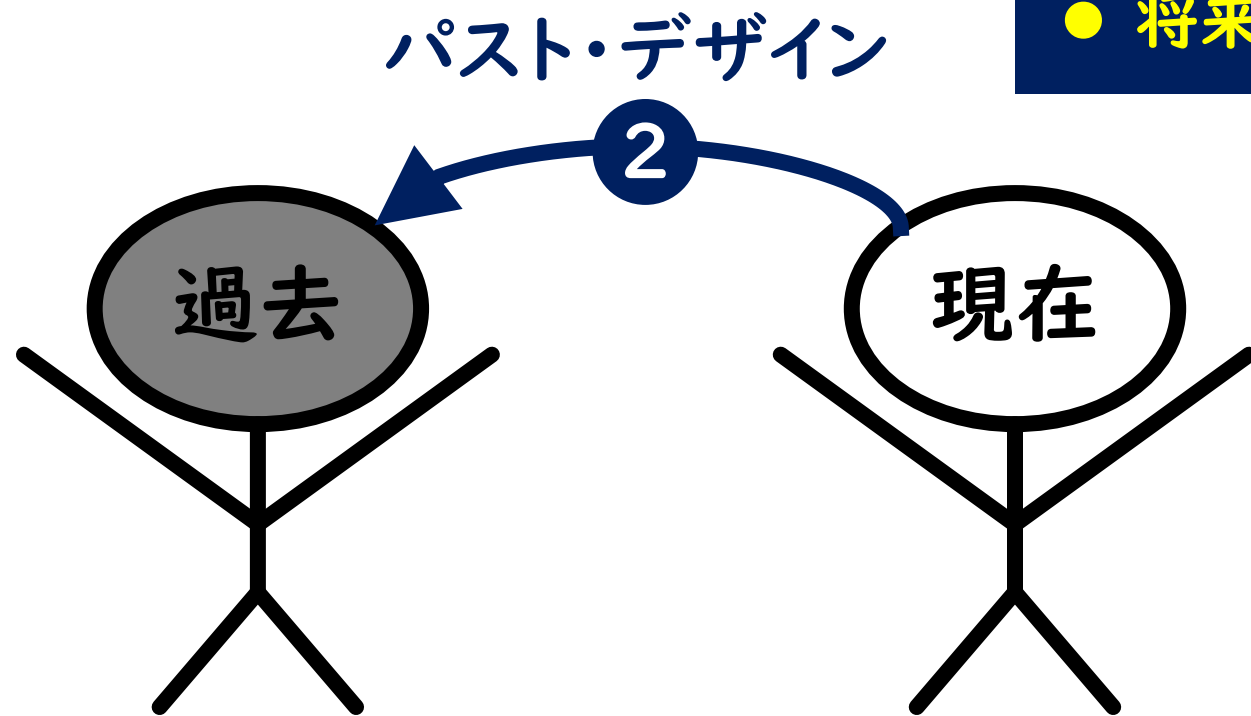
これまでに実施したショート・フューチャー・デザイン

15分程度で完結するショート・フューチャー・デザインも5件

- 2024.1.22 中国信男教育学園の**高校2年生40名弱**の本学訪問時に実施
- 2024.1.29 キヤノングローバル戦略研究所主催のフューチャー・デザイン・ワークショップ48のオンライン講演時に**フューチャー・デザインの関係者（教育関係者、研究者、官僚その他）約60名**に実施
- 2024.2.8 金沢大学国際基幹教育院のオンライン研修会講演時に**大学教員約20名**に実施
- 2024.3.5 大学のためのFuture Design研究会のオンライン講演時に**参加者（大学関係者）約20名**に実施
- 2024.4.12 研究室ゼミのガイダンスにて**大学院生+ポスドク10名**に実施

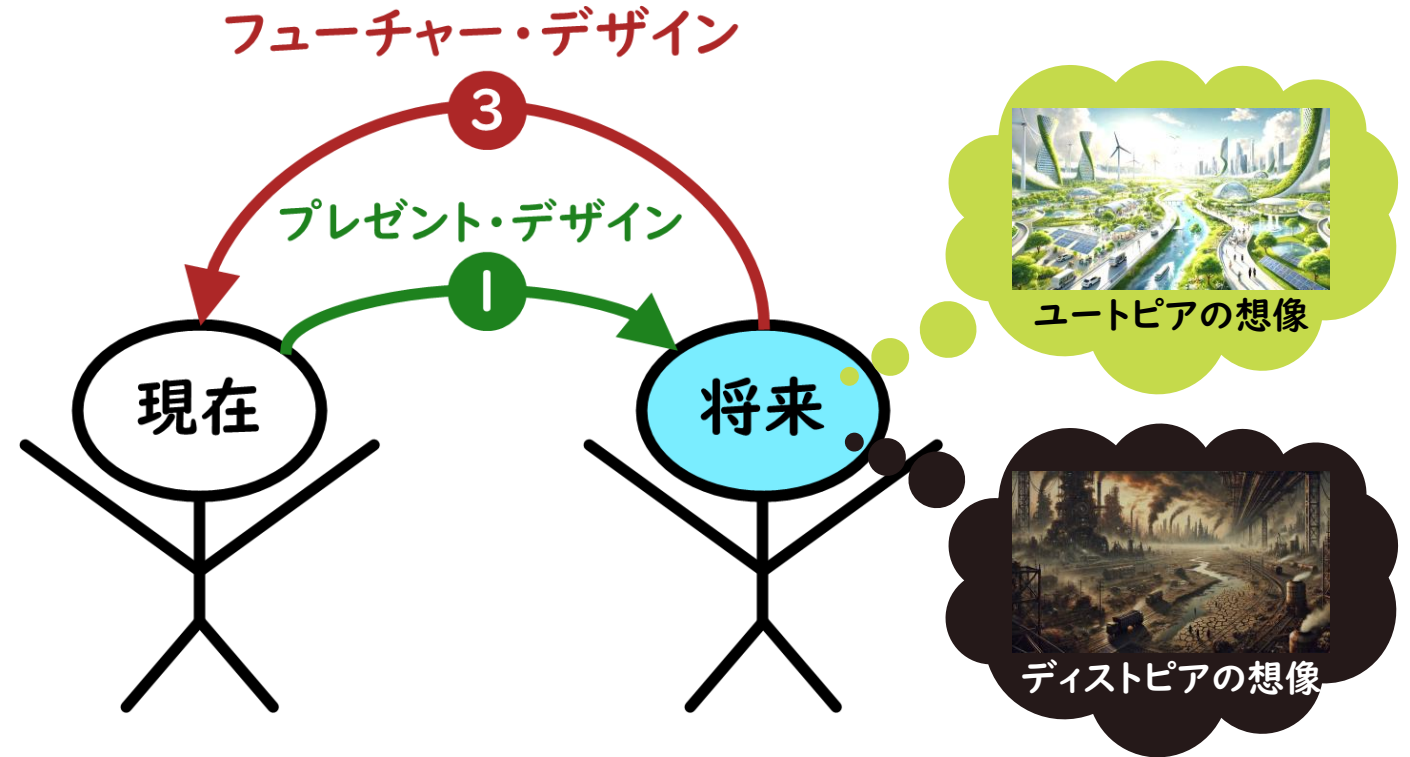
これまでの授業実践から
わかったこと

- 現在の問題の要因を過去に求める
- 過去を変えることで問題解決を図る
- 将来想像の練習や思考演習として有効



「予想外を想像することの重要性」が実感できる

- 将来にジャンプすることで現在の限界やしがらみの「無意識のバイアス」が除去できる
- 持続可能な社会を実現する現在の課題を発見できる
- 将来人の私が現れることで内発的動機づけを誘発できる



ユートピア／ディストピアを自由に想像させているが、両方する方が良さそう

「予想外の将来を想像すること」が色々な教育効果をもたらす

比較的時間（90分×1～8コマ）をかけ

①プレゼント・デザイン ②パスト・デザイン ③フューチャー・デザイン

を複数実施した授業や研修が5件

実施時期	対象	人数とコマ数	コマ数	手法
2023後期	九大1年生	約50名×3	8	②③
2024春学期	九大3～4年生	約20名	2	①③
2024前期集中	九大院生	9名	8	①②③
2024前期	昭和女子大1～4年生	約20名	4	①②③
2024夏期	立命館大職員	約50名	1	②③

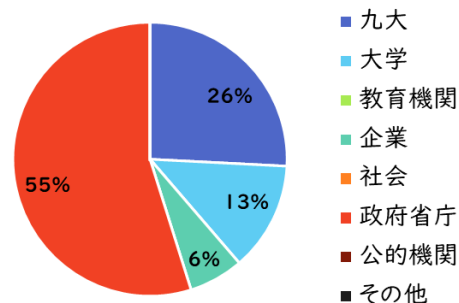
課題協学科目 (九州大学1年生) ～学びのフューチャー・デザイン～

フューチャー・デザイン未導入・導入の比較

学生の成果物から私が比較考察した結果のまとめ

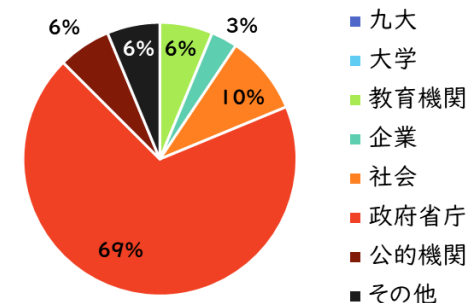
FD未導入年度の3クラス

- 「大学・企業」「バス・高い」「成績・評価・基準」など**自分の利益につながる身近な提言**
- 自分中心の**身近な問題を解決できそうな相手に提言**



FD導入年度の3クラス

- 「AI・技術・考える」「教育・問題」「倫理・道徳」など**日本全体の技術や教育に関する提言**
- **日本全体の教育問題を解決できそうな相手に提言**



FDによって、身近な不満の解消から日本全体の問題解決へマインドセットが大転換

脳情報科学入門

(九州大学3～4年生)

～脳科学のフューチャー・デザイン～

プレゼント・デザインとフューチャー・デザインの比較

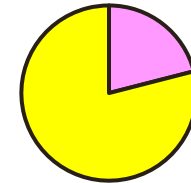
㊦ 変わらなかった：21%（19人中4人）

- 経験則をもとに想像したため／変わらなかったが理由付け・根拠がはっきりした

㊦ 変わった：79%（19人中15人）

- FDではある種の希望的観測で考えるので、技術革新的発想がしやすかった
- 2歩先を想像して1歩先を考えられたため、より柔軟に具体的に発想できた
- PD：今研究したいこと→FD：将来的に必要なになりそうな研究
- FDでは、生活に直接影響を与えそうな研究（脳移植やテレパシーなど）が必要だという意見が多かった
- PD：真面目な提案→FD：楽しくて実現しがいのある提案
（理由や目的が明確になり、卒にとられない考えが楽しさという好奇心を生んだのでは？）
- PD：自分の体験をもとに不便・不満を改善したい→FD：「未来にこんなのがあったらいいな」を発想
（技術革新では突飛で誰も考えなかったことを現実に創り出すことが非常に大事なのでFDは非常に面白い）
- PD：脳全体の再現→FD：脳の一部に特化して再現し、便利なものを作る
（人間を再現しすぎると、人間の価値が低下する）
- PD：技術の進歩や単に気になること→FD：人が幸せになる方法
- 将来人目線では昔と「違ったこと」に目線が行きがちなので、両方必要
- 楽観と悲観、多様なFDが必要

これからの脳科学はFDで



□ 変わらなかった □ 変わった

FDにより、目標や根拠が明確になり、柔軟に革新的な発想ができるようになった。
本質的な人間の価値・幸せを考えた研究も考えることができた。しかし、FDだけでは不十分。

将来人になる工夫

タイムマシングッズ

「超小型特殊タイムマシン」
として扱う青系のものを身に付けてもらう









通常の
フューチャー・デザイン



個人的なモチベ向上の
フューチャー・デザイン

成功し活躍している
50歳の私に会いにいった
20歳の私

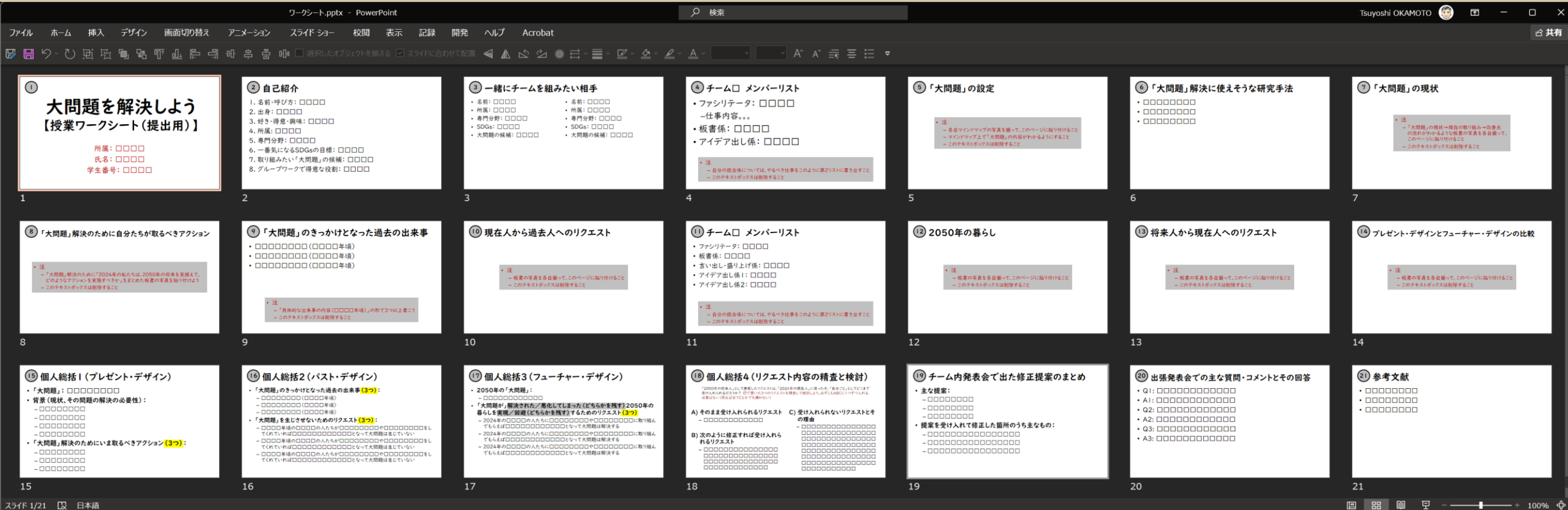


FD授業の新たな工夫

大問題を解決しよう (九州大学大学院生) ～大問題のフューチャー・デザイン～

ワークシートを中心にしたグループワーク

21枚のワークシートを用いたPPFDのグループワーク



● 学生は流れと作業内容が明確になり、教員は成績評価をしやすくなる

● 板書を各自撮影して貼るため、これまでの議論をいつでも誰でも振り返ることができる

● グループでの意見集約だけでなく、個人総括として自分だけの意見もまとめられる

FDには教育効果が確かにある。

やってみたいという人も多い。

しかし、導入の敷居が結構高い。



経験とノウハウを集約・共有すれば
FDの教育導入の障壁が除けるのでは？

A futuristic scene featuring a man in a dark suit and a woman in a blue dress on the left, and a highly detailed, metallic robot on the right. The background is a modern, brightly lit interior with circular light fixtures and digital displays. One display in the background shows the text "LOCAL FUTUR".

2124

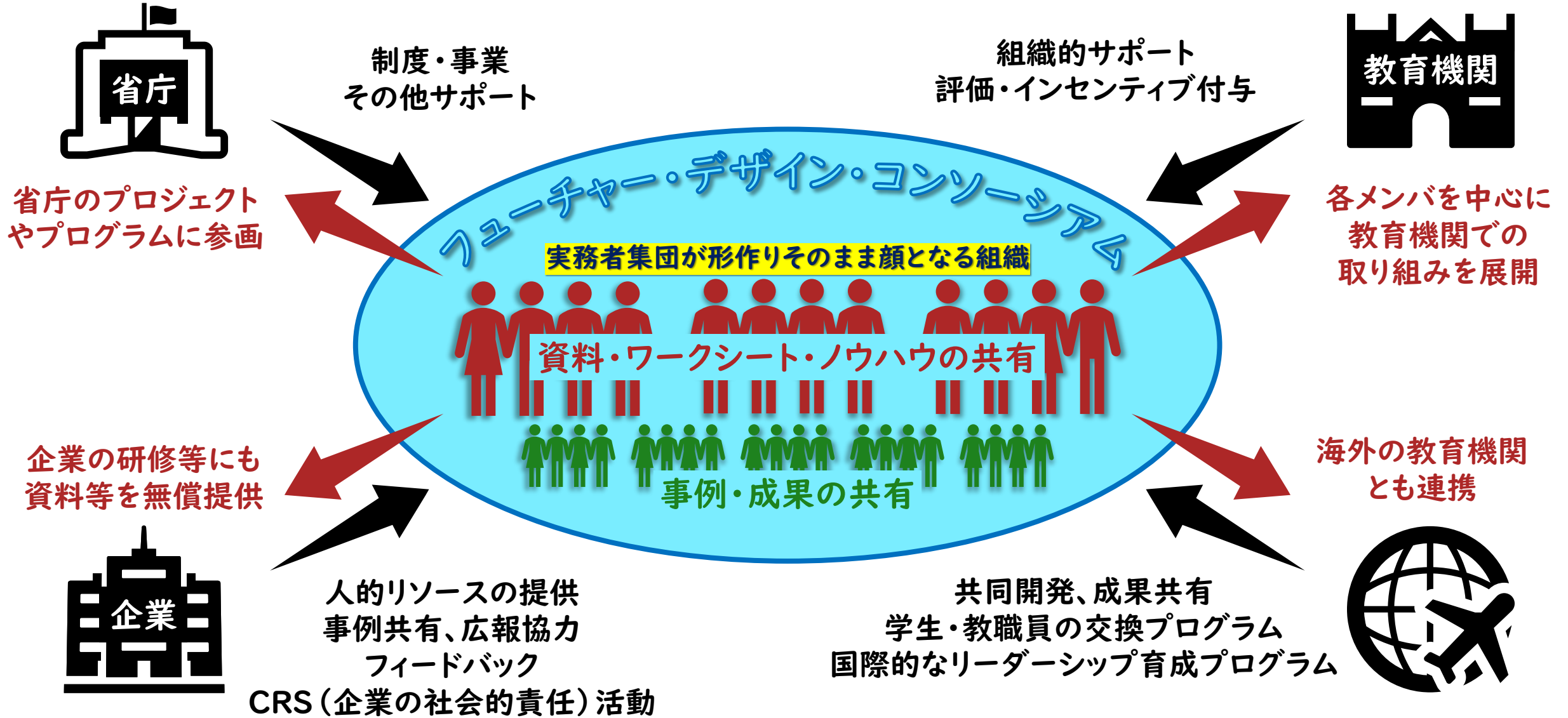
私がFDで対話した将来人がこう言うのです。
「岡本先生が**フューチャー・デザイン・コンソーシアム**を作ったあと、
人々の意識と学びが大きく変わりました。
昔は『世界終末時計』なんて物騒なアイデアがあったんですね。」

経験とノウハウを集約・共有し

FDの教育導入の障壁を除く

持続的なコンソーシアムをつくろう!!

こういうコンソーシアムをつくりたい



メンバーが柔軟に入れ替わり発展的に持続する

フューチャー・デザイン・コンソーシアム準備委員会

フューチャー・デザイン・コンソーシアム準備委員会

準備委員会の活動

私たちは、教育・研究・事務の現場でフューチャー・デザインを実践するために参加大学や参加者が相互協力する「フューチャー・デザイン・コンソーシアム（FDC）」を構想しています。FDCでは、フューチャー・デザインを実践するための資料・ツール・ノウハウ・成績評価方法などを集約し、導入効果を分析し、エビデンスを創出しながら、よりよい手法の開発も行っています。FDCが立ち上がれば、アカデミアの現場から、真に持続可能な社会の構築を目指し、フューチャー・デザインに取り組んでまいります。

活動記録

2024 後期 [授業]

西條先生が、京都先端科学大学ビジネススクールで「Future Design」（社会人対象の英語授業）を開講します。

2024 秋頃 [出版]

西條先生が『フューチャー・デザイン』（日経BP）を出版します。

2024 5月～8月 [授業]

岡本先生が、昭和女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科の授業「DP総合演習C1」において、フューチャー・デザインを実施します。

コンソーシアム創設に向けて準備活動中
お問い合わせは岡本まで

okamoto@artsci.kyushu-u.ac.jp

委員名簿（あいうえお順）

役職	氏名	所属
委員	粟田 恵吾	日本総合研究所
委員	岩橋 嘉大	兵庫県立青雲高校
委員長	岡本 剛	九州大学
委員	木村 岳裕	金沢大学
副委員長	上月 翔太	愛媛大学
委員	西條 辰義	京都先端科学大学
リエゾン委員	塩川 雅美	大学未来創造研究所
委員	重 浩一郎	八戸工業高等専門学校
委員	濱口 泰代	名古屋市立大学
委員	松本 清	東京工業大学

まずは簡単なことから一緒に実践してみませんか？

第1部 終

ご清聴ありがとうございました

この後の話題

- 愛媛大学未来思考支援科目の取り組みについて
- 立命館大学の職員研修へのFD導入について